

ホームホスピスは「とも暮らしの家」です。  
認知症、虚弱高齢者、がん末期、神経難病……、  
さまざまな条件をもつ人が5、6人、  
一軒の家でともに暮らす。  
そこに必要な介護の手、看護の手がはいる。  
ホームホスピスは、最期まで住人一人一人の  
暮らしを尊重しています。  
そして私たちは、誰もがいつか迎える  
死の悲しみを癒し慰めてくれるのは、  
やはり「人」なのだと思っています。

# 暮らしの中で “死にゆく” こと

■日時 2015年6月7日(日) 13:00-16:00 (開場 12:00)

■場所 あいめっせホール 姫路市本町 68 番地 290 イーグレ姫路 3 階  
電話 079-287-0803 (JR 姫路駅より姫路城方向へ 600m)

■参加費 1000 円 (当日、受付でお支払い下さい)

13:05-14:20

基調講演

## 暮らしの中で“死にゆく”こと

ホームホスピスの役割とケアの実際

市原 美穂



Ichihara Miho

1947年、宮崎県生まれ。1998年、「ホームホスピス宮崎」設立に参画。2002年「NPO法人ホームホスピス宮崎」理事長就任。2004年、空き家になった民家を利用して、自宅ではないもう一つの「家」としての終の棲家「かあさんの家」を開設。現在、宮崎市内に4軒を運営している。現在、最後まで安心して暮らせるまちづくりを目指して、NPOとして様々な事業を展開。その他「宮崎をホスピスに」プロジェクト代表、宮崎大学医学部非常勤講師、社会福祉法人理事などを務める。

著書：『病院から家に帰る時読む本』共著、『ホームホスピス「かあさんの家」のつくり方』、『暮らしの中で逝く』(図書出版木星舎)など。

受賞：2006年、毎日介護賞アフラック賞(毎日新聞社)。2008年、社会貢献者賞(日本社会貢献支援財団)。2009年、新しい医療のかたち賞(医療の質・安全学会)

14:30-16:00

シンポジウム

## ホームホスピスでの暮らしと看取り

コーディネーター・松本 京子〈神戸市「神戸なごみの家」〉

パネリスト・兼行 栄子〈尼崎市「愛逢の家」〉／金居 久美子〈姫路市「ひなたの家」〉

藤本 壮之〈姫路市「共立病院」〉／山野 敬子〈ケアプランやまの〉

ホームホスピス利用者のご家族

コメンテーター・市原 美穂

主催 ホームホスピス推進委員会関西支部

後援 日本ホスピス・在宅ケア研究会 がん患者グループ「ゆずりは明石」  
全国ホームホスピス推進委員会